

第1～3回明日香村小委員会における各委員からの指摘事項等

- ①：第1回小委員会における各委員からのご指摘内容
(②、③も同様)

1. 全般

- ・日本の社会資本というと、土木整備をイメージしがちだが、ローマ時代の人々は心身の健康のためや労働意欲を高めるために、社会資本を高めていた。そのような背景を参考に、社会資本の整備に関しても改めて認識を深めてもらいたい。(①)
- ・歴史まちづくりにおいて、「風致」や「情緒」という単語を用いることはあるが、「逍遙」という単語は出てこない。言葉の整理が必要。(①)
- ・国内外に向けて、明日香村には日本の国の成り立ちから今までの姿が凝縮して存在しているということを、きちんと主張することが必要では。(②)
- ・地元と国がどういう役割分担をして歴史的風土の保存を進めていくのか、枠組みを示すことが必要ではないか。(②)
- ・国策として、直接的に行うべき事業について、述べる必要があるか。(②)
- ・新しい取組にチャレンジすることを前向きに評価していることはよい。ただし、国営公園部分について、今後の方向性に取り入れていないのはいかなるものか。実証実験の場として園内等を利用することなど、ぜひ取り組んで欲しい。特に、村民の足となる公共交通に関する新技術の検討等が進められると非常に良いのでは。(③)
- ・新元号となってすぐに出される報告事項であるので、創造的な内容を取り入れてみてはどうか。society5.0や歴史的風土の保存と調和の取れた新技術の導入についてなど、10年後を見据えてある程度実現可能性に係る予想の裏付けがある内容を取り入れると良いのでは。(③)
- ・AR・VRや災害時におけるドローンの活用等についても検討ができるだろう。(③)
- ・今回の報告には間に合わないが、村における地形や植生等の基礎データが不足している。村が収集するだけでなく、国や県で実施すべきではないか。また、他の古都における状況も同様。(③)

2. 歴史展示の推進に関すること

- ・「国家基盤が形成された明日香の歴史を体感できる歴史展示の推進」は、古都法・明日香法における「歴史的風土の保存」という法律概念の範疇を越えているのではないか。(①)

- ・本委員会の中で歴史の本質の発見・保存というところまで議論するのか、検討体制も含めて方向性を示してほしい。(①)
- ・保守的な歴史観と客観的な歴史観をどう使い分けるのかというセンスを持ってほしい。(①)
- ・東アジアを中心とした世界との交流してきた明日香の特長について、解明が必要であるとともに価値を改めて評価していきたい。(①)
- ・文化財の発掘については、進捗しているものの、未だ3割程度に留まっているので、引き続き国・県・明日香村三者で連携して進めてもらいたい。(①)
- (②)
- ・明日香村全体をまるごと博物館として、入れ物のないフィールドミュージアムにするという考え方のもと進めており、歴史展示という概念を出来るだけ強くテーマを持った上で議論したい。(①)
- ・インターナショナルな現代を踏まえ、多民族がここに集まっていたということはどういうことか、価値を考えた方がよい。(①)
- ・歴史展示の推進は前回の基本方針にも載っており、研究・発掘の成果等について整理した上で、国際的な視点も踏まえて展開していくとよい。(①)
- ・高松塚古墳の修復後の公開について、まるごと博物館等と連携して、フィールドを巡ることのできる整備が出来ると良い。その際、国際的な視点を持った拠点整備もあると良いだろう。ぜひ、文化庁と一緒にやってもらいたい。(①)
- ・文化財は公共財であるから、研究所が公表・公開を積極的に行うようにしてもらいたい。(①)
- ・復元だけでなく、物見台のようなものの整備についても検討してもらえると有難い。(①)
- ・飛鳥大仏等の国宝や重要文化財なども検討の対象として取り上げてもらいたい。(①)
- ・農村景観として、奥飛鳥の重要文化的景観についても触れてもらいたい。(①)
- ・村内の文化財について、科学的根拠に基づく復元を行うべき。(②)
- ・国策として行う以上、文化庁や奈良県と連携して取り組むことが必要。また、他地域との差別化という観点からも、東アジアとの交流という点を強調したPRが必要では。(②)
- ・歴史的文化的遺産を道のつながりや動線について見直すことで、これからのように活用するか検討するべきではないか。(②)
- ・キラコンテンツとして、高松塚古墳壁画及び飛鳥宮跡を明確に示して欲しい。(②)
- ・若者が明日香を知らない現状を踏まえ、若い人向けの情報発信の充実が必要。観光のための広報等の情報発信を推進するだけでなく、明日香で培われてきた発掘調査の成果や文化財に関して、啓蒙をしっかりと行うことが重要ではないか。(③)

- ・飛鳥時代は東アジア等との交流も含め、多民族でクリエイティブな環境だったことが考えられる。現代の明日香村における計画にも、新技術等を用いて古代文化を伝えたり、若者やアートを積極的に受け入れるなど、柔軟性をもって取り入れることが必要。(③)

3. 農業及び自然的環境の保全に関すること

- ・山林は、戦後の大造林した時代の人工林であり、針葉樹林帯が中心。樹種転換までは手が回らず、万葉の時代の林相とは違うことや竹林が繁茂している現状について指摘があるものの、対応が難しい。(①)
- ・あすカルビーの観光農園やツルムラサキ・ターサイ等の商品化を進めているところだが、流通させるほどの栽培量も品質も確保が難しいほか、販路拡大もなかなか進んでいない。(①)
- ・獣害対策の一環として、ジビエを活用する6次産業化や、明日香ブランドの発展も必要では。(①)
- ・専門家の意見も伺いながら、里山保全に係る先進的な取組等を進めてもらいたい。(①)
- ・これまでの取組を踏まえ、明日香が日本の中での先行事例となるべきである。(①)
- ・山や川、農地などを個別にみるだけでなく、地域のなかでまとめることで価値を上げていくことが必要ではないか。(①)
- ・自然環境と農業をイコールで捉えるのではなく、元の地形や植生を踏まえた上で、農業等の特徴を捉えるべきではないか。(②)
- ・買入れた土地や耕作放棄地を新規就農者の農地として活用したり、広葉樹林化を図ることが必要ではないか。(②)
- ・奈良県内ではブランド野菜として大和野菜があるが、実は明日香村では大和野菜はなく、伝統野菜が自家採取等なされているのかといった農作物調査も未だなされていない。今後、調査が必要ではないか。(③)
- ・これまでの村の農業は、作物を作ってからどう売るかを考えていたと思われるが、これからは、作物を作った上でどのように生産振興していくかという出口を先に考えた上で、生産することが必要である。(③)

4. 地域の祭礼行事・民俗芸能等の継承・発展に関すること

- ・村民が地域に対して愛着や誇りを持てるように、明日香村について学ぶ機会やツールを用意することが必要。(②)
- ・伝統的な行事だけでなく、新たな芸術や文化を生み出すことも必要であり、その主体となる民間団体の活動のしやすい環境をつくることも必要では。(②)

- ・キラーコンテンツは、実は地元の方が大切にしていたり、楽しいと思っているものがその地域のキラーコンテンツとなる可能性がある。(②)

5. 観光振興に関すること

- ・明日香村をPRする上では、10年程度の視野で戦略を練ることが必要ではないか。また、ジャパンハウスへの出展など、国外へのPRについても検討を進めることが必要では。(②)
- ・国内外に対して、明日香村全体ではなくて歴史的文化的遺産等の個別のものをアピールすると同時に、現地に行くと全体についての説明がされるような工夫が必要。(②)
- ・明日香村の全体像の説明をする施設を用意することも必要では。(②)
- ・観光に係る情報の一元化及び問い合わせや情報発信を全て一元化し、ワンストップ化を進めることも有効では。(②)
- ・中期的には、DMO化を進めることも検討していく必要がある。(②)
- ・明日香村民が快適に暮らせる環境を重視したツーリズムのあり方を検討することが重要。(③)
- ・広域連携について記載があるが、外国人観光客は全国を周遊して観光することも多くなってきており、地理的に近いというだけでは不十分。エリアの役割や連携する必然性、連携のテーマを明確にした上で取り組むよう注意が必要。(③)
- ・明日香には日本そのものを体感できるベースがある。それは自然との共生を感じられる点と、大きな変化を時間をかけて受け入れてきた地域であるという点である。じっくり滞在をしてもらうなかで、体感してもらえらるメニューを揃えつつ、環境整備することが必要。(③)

6. 生活基盤の整備に関すること

- ・土地法制も単に地面の仕分けだけでなく、そこにいかに人が長く住めるのかということも含めて考えている必要がある。(①)
- ・過疎地域に指定されたことに係る対応は、優先的・可及的課題である。(①)
- ・移住施策の一方で、地元住民が明日香人として誇りを持てるような施策検討が必要である。(①)
- ・村内での雇用拡大について、副業として村内で活躍してもらうなど、柔軟な取組を進めることも良いのではないかと。(②)
- ・歴史分野はもちろん、様々な分野での大学との連携によって、明日香村への理解の醸成を図ることが必要である。(②)
- ・大学との連携を図る上では、地域側にも受け入れるためのコーディネーターが必要ではないかと。(②)

- ・ 民間連携は、団体組織そのもののあり方についても検討する必要があるのではないか。(③)
- ・ 下水道の整備をはじめとしたハード整備は一定程度進んできた。今後は村内のキャッシュレス化等のソフト施策も充実を図ることが必要ではないか。(③)